

飯島賢二の『恐縮ですが...一言コラム』

第 347 回 迷ったら原点に戻れ！ 悩んだら基本に戻れ！

2010.1.17

最近になって改めて思うこと、今更ながら、経営の難しさ、人と通じ合い、部下の意識を変えることの難しさである。

「日本語で何度いっても分からない、彼は何語で言えば分かるんだ！」なんて怒鳴っている自分に気付き、ぞくぞくとする場面がある。こんな時こそ冷静に、そう、「原点に戻って」が今年のテーマであった。

経営者とは言ってみれば「**決断業**」、決断できない人はトップになる資格がない、これが原点であった。小さな決断も大きな決断も同じ。そして決断したことには必ず責任が伴う。責任とはお客様、従業員やその家族、そして利害関係者等の社会に対する大きな責務である。

特に難しいのは「撤退」、「やめる」決断だろう。多くの経営者は、攻めるのは得意だが、撤退が下手かもしれない。だからつい、決断を先送りしたり、条件付決断をすることが多い。

これが違うのだと思う。意思決定に際して大切なことは、**前後際断**（ぜんごさいだん：過去や未来を断ち切って、今に集中するの意）。あれもこれも考えずに、一つずつ腹を決めて決断することだと思う。色々な条件を付けた決断は結局、曖昧（あいまい）になる。

なぜ撤退するのか、それさえはっきりしていれば、実は、答えは明解である。ビジネスの原点を見直せば、ビジネスの目的は自主性にある。自分で考え、仕事を創り、積極的に仕事をするのが自主性だろう。なぜならば、ビジネスとは顧客創造であり、価値創造であるからに違いない。指示された通りの仕事は作業であり、決してビジネスとは言わない。

仕事とは自ら考え創意工夫するもの、それができなくなった事業は、撤退する必要がある。冷静にその事業を見直せば、決して利益に貢献しない、スタッフの意識も低下している事業である場合が多い。これこそ、無駄な会議を繰り返さず、色々考えずに、即、撤退の決断をすべきなのであろう。

日常的現実の中では、多くの仕事に追われている。たぶん「目先の急ぐ仕事」に追われているのだろう。そんな中でつい、大切な決断を先送りにしてしまう嫌いがある。これが決断を狂わせる大きな要因の一つになっている。

実は、仕事はその性格上、優先順位が違うはず。だから常に、仕事に「**緊急**」と「**重要**」の区別をつけることが大切だと思う。重要ではないのに緊急の仕事ばかりしていると、いつまでも成果は挙がらず、決断の時期も逸してしまう。結局、重要課題を放置すると総てが緊急課題になってしまっていること、省みる必要がある。大切なことは重要課題から処理する知恵と勇気であること、これもビジネスの原点であった。

そして、リ・ダーで大切なことは、自分の仕事に他人を巻き込むことである。冒頭の怒鳴りまくる某経営者では、とても、人を巻き込むことはできない。自分が強烈な目的意識を持っていれば、他人を巻き込むことができるはず、これも基本中の基本であった。目的を決めたらその達成までは命がけで実践すること。殺されても放さないくらいの覚悟と意思でやり抜けば、必ず成功が見えてくる。

迷ったら原点に戻れ！

悩んだら基本に戻れ！

年頭に自分で決めたテーマであった。考えさえはっきりすれば、後は行動あるのみ、じっくり考えている時はない。そう、今年寅の年は、「**考えながら走る年**」である。